

国際交流基金事業報告書

薬学部 3 年次 柳川 裕子

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けまして、2015 年 8 月 1 日から 8 月 26 日の約 3 週間、アメリカ合衆国のマサチューセッツ州にある、ボストンを訪問致しましたので、報告致します。滞在中は学生寮に滞在しながら、語学学校である、Kaplan International English Harvard Square に通い、英語力の向上や、異文化交流に取り組みました。

2. Kaplan International English Harvard Square

Kaplan International は、75 年にわたる歴史のある語学学校です。現在、7 ヶ国に 44 校の学校があります。私が通った、Kaplan International English Harvard Square は、名前の通り、世界的に有名なハーバード大学のほど近くにありました。ハーバード大学は、ダウンタウンから地下鉄で 15 分ほどの、ケンブリッジという小さな町にあります。

授業は平日の毎日 3 時間、朝 8 時半からのクラスと、14 時半からのクラスがあります。初日にプレセメントテストが行われ、自分の英語力にあったクラスに入ります。週ごとにテーマが決められていて、週の最終日である金曜日には、エッセイの提出が求められました。第一週のテーマは Immigration 「移民問題」でした。日本語で説明するのも難しいこの問題について、英語で授業を聞いたり、クラスメイトに英語で日本の現状について説明することは、大変困難なことでした。これらの授業を通して、アメリカ合衆国ではメキシコからの移民が、イタリアではリビアからの移民問題が深刻であるということを学びました。

クラスメイトの国籍は様々で、韓国、台湾、中国といったアジア系から、イタリア、トルコ、ブラジル、サウジアラビア、ベネズエラ、チリ出身のクラスメイトがいました。



(Fig 1) Harvard university library



(Fig 2) クラスメイトと一緒に

3. アクティビティ

授業が午前中に終わる日も多かったため、午後はアクティビティに参加していました。学校主催のものと、個人で計画したものがありますが、ここでは2つに絞って報告したいと思います。

A) ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学への訪問

ボストンは全米の中でもトップクラスの大学が集まる都市で、これらの大学を訪問、見学しました。また、学生主催のキャンパスツアーにも参加しました。アメリカの学生は親元を離れ、寮に入るそうです。親から自立し、ルームメイトと生活を共にすることで、人間関係を学び、社会に出る練習をするそうです。また勉強が忙しく、すぐ近くに図書館があり、食事の心配もいらない、という状況でないと、日々の授業を消化しきれないそうです。入学するのが難しく、卒業するのが簡単だと言われている日本の大学との違いを感じました。高校までが義務教育であるアメリカでは、大学の1、2年生が日本の高校生と同じぐらいの内容を勉強しているそうです。また、医学部などの高等教育は大学院からしか始まりません。一度社会に出てから大学院に戻る人も多くいるそうです。



(Fig. 3) キャンパスツアーの様子



(Fig. 4) MIT にて

B) Museum of Science の見学

宇宙に関する展示から恐竜や動物、鳥類の展示など、科学に関するあらゆる展示があり、1日では回りきれないほどの広さと、情報量でした。トイストーリーで有名なPIXARの特別展も行われていて、映像がどのように作られているのか、自分で体験しながら見学することのできる内容で、とても面白かったです。

人体の構造と機能、代謝や病気に関する展示もありました。普段勉強している内容ですので、知っている模型や知っている単語も多く、それらを頼りにすれば、展示を理解することはさほど難しいことではありませんでした。

4. 最後に

今回の留学で私が一番に感じたことは、日常会話に、さほど高度な単語は必ずしも必要ない、ということです。想像していたよりも、周りの友人や現地の人とコミュニケーションができ、うれしく思う反面、日本に帰ったら細かいニュアンスの勉強をしよう、通じる英語ではなく、より自然な英語を目指そう、と思いました。自国のことを知っていることも、国際社会で生きていく上で重要だと分かりました。

このような貴重な体験ができましたのも、国際交流基金のおかげです。ありがとうございました。